

岩手県釜石市植樹場所：世界遺産橋野鉄鉱山



三番高炉

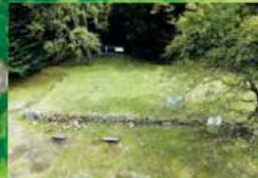
花崗岩の基壇2段の上に約5.4m四方、高さ2.8mの花崗岩の石組（5段）が積まれており、四隅には縦長の花崗岩が配置されている。当時の高さは約7.0m。高炉中央に炉底塊がある。この石組形式は、大橋高炉においても採用されており、初期の高炉の基本形であったと考えられている。

二番高炉

花崗岩の基壇1段の上に約4.8m四方、高さ2.4mの花崗岩の石組（4段）がある。絵図には9段の石組が描かれており、当時の高さは約7.9m。フィゴ座と湯だし口の配置は一番と同じ。高炉中央に炉底塊がある。

一番高炉

花崗岩の基壇1段の上に約4.8m四方、高さ2.4mの花崗岩の石組（4段）がある。送風口が東側に設置されている。（岩系の石と考えられる。）た。石組の炉の内側には、高さは約7.8mであっ



御日弘所

高炉の従業員に資金を支払うほか、採掘場から運ばれた鉄鉱石の管理、出来た鉄鉄の製品管理を行う事務所でもあった。また持ち込まれる餅鉄の購入も行ってた。



種焼場・種積場・種砕水車場

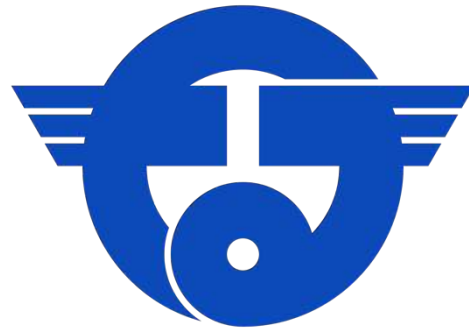
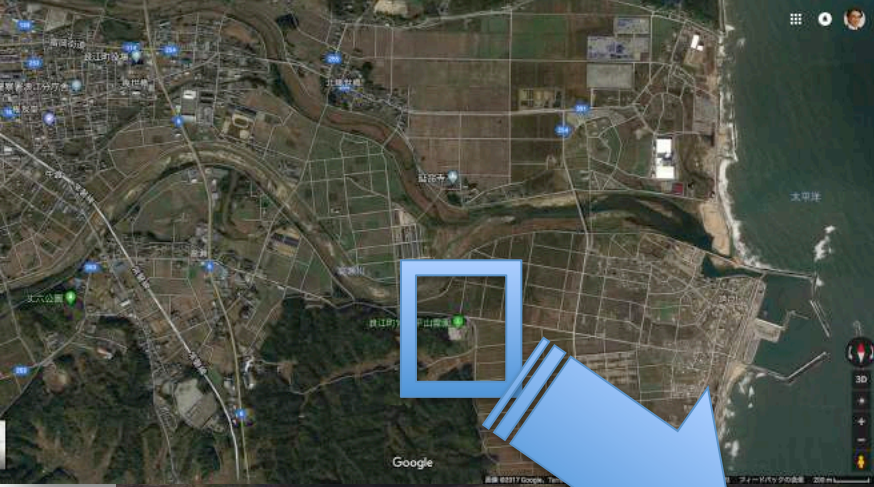
種とは鉄鉱石のことである。採掘場から運ばれた鉄鉱石を高炉に投入する前に、不純物の除去や破砕を行う必要がある。鉄鉱石を加熱・破砕する場を種焼場と呼び、人力で作業が行われたほか、水車も設置されていた。



長屋・鍛冶長屋・大工長屋
最盛期には約1000人の従業員がいたとされ、大工や鍛冶などさまざまな職人が住む長屋や作業場もあったとされている。

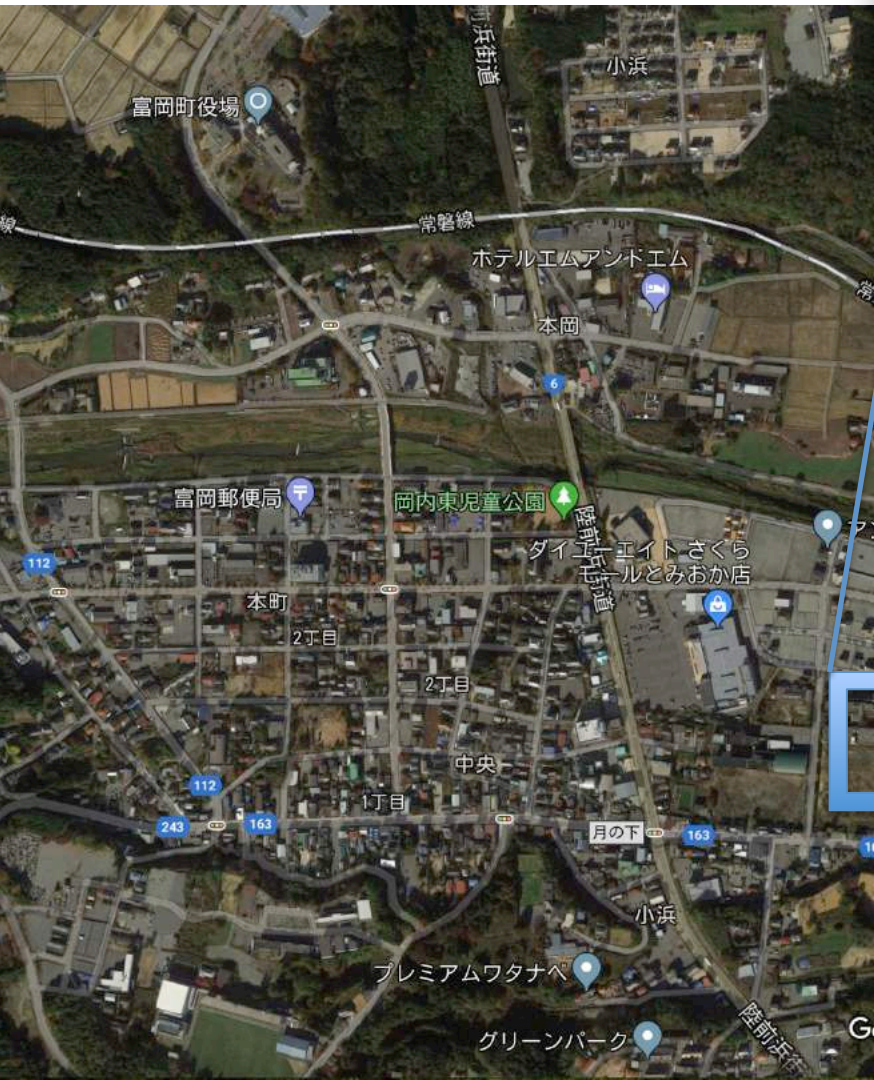
植樹場所

4/1~12/8
ガイドあり
トイレあり
自販機あり



浪江町





2017年7月4日、ワンアースは福島県大熊町、富岡町、浪江町を訪れ、各町長に「きぼうの桜」計画を提案、いずれも実施することが決まりました。

浪江町



大熊町



富岡町



この3町は原発直近ということで、2011年以来ほとんどの住民が避難していました。2017年春、浪江町と富岡町では、一部の地域で避難指示が解除され、住民の帰還が始まっています。大熊町はまだ帰還叶わず、会津若松市やいわき市に集団移住して苦しい闘いが続いています。避難命令が解除されても、住民の帰還が進まないのには理由があります。

・生業の復活が難しい

・6年間も住んだ避難先が既に故郷になっている

などです。これらの課題は帰還を先延ばしにするほど深刻になっていきます。

手放しに帰還を推奨することはできません(住民のみなさんにはそれぞれの事情があるからです)。

それでもワンアースは、きぼうの桜を植え、帰還した皆さまに喜んでいただくとともに、新たな故郷の魅力創りに取り組んでいきます。

そこに故郷がある限り